困難を抱えた子どもたちに向き合う

～これからの子どもの居場所づくりを考える～

２０１９年7月３１日

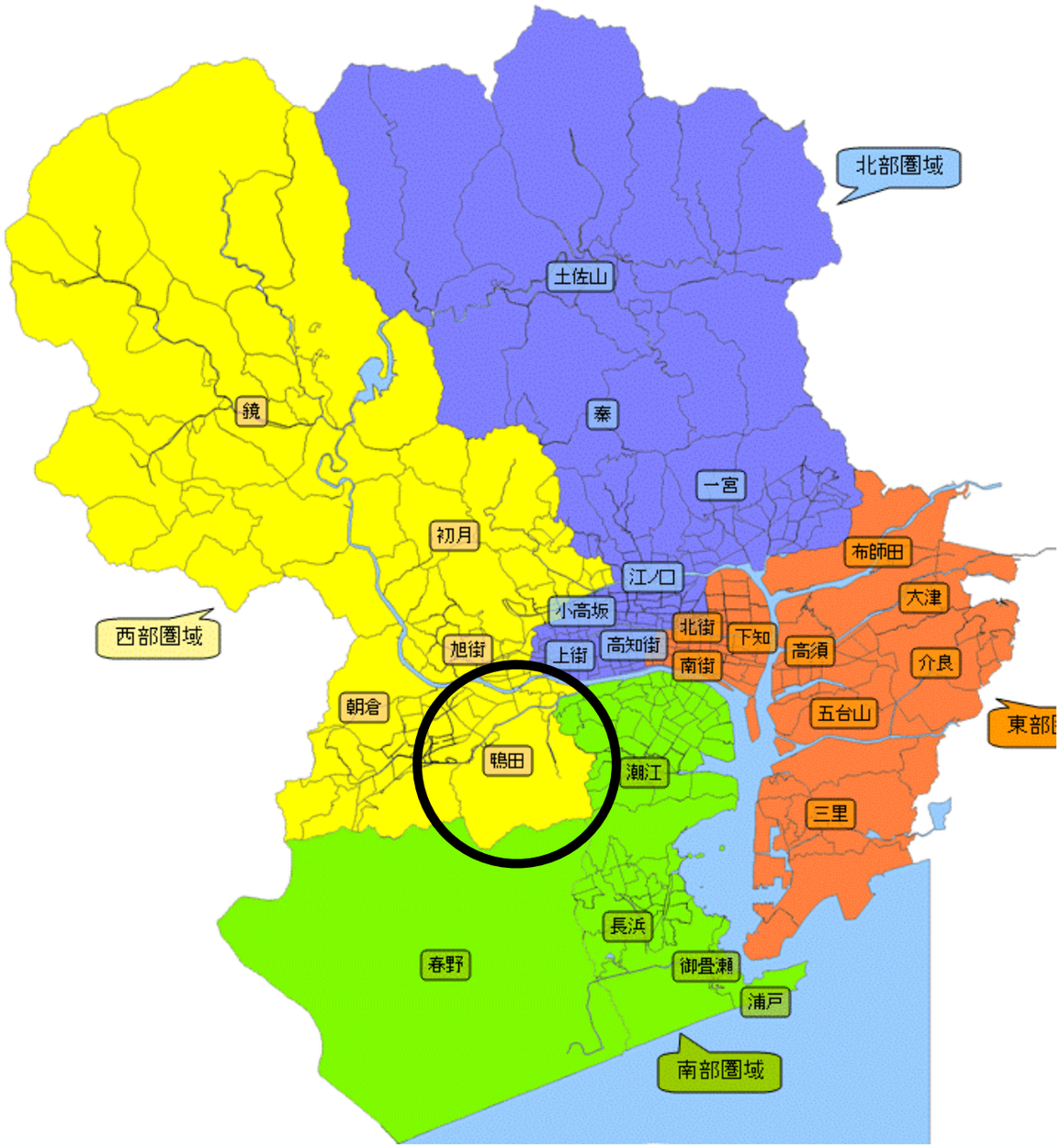
子どもたちが
ワクワク夢を
描ける未来へ
子どもを中心とした
地域の居場所
えいや家

NPO法人GIFT

事務局長　眞鍋大輔

© 2018 NPO法人GIFT

子どもを中心とした地域の居場所「えいや家」とは



〈高知市〉

人口はおよそ３３万人、少子高齢化最先端高知県の中心地。
県内最大の商業地を持つと同時に、県内の人口の46.7%を占めるプライメイトシティ（一極集中型都市）でもある。
経済水準が低く、雇用や福祉、子どもの教育など環境も芳しくない状況であり、生活保護世帯、単身高齢者、ひとり親家庭も全国平均より高い割合となっている。
いわゆる「貧困の連鎖」が根深い。
非行や少年犯罪、不登校など教育面においても課題が多い。

〈鴨田地区〉

高知市西部地域に属する、鴨部と神田をあわせた地区である。中心地より近く利便性も高いことから近年人口が増加傾向にある。およそ人口２６,５００人、１２,７００世帯。
小学校２校、中学校１校。児童数が市内で２番目規模で、生徒の中には生活困窮世帯も多く、４人に１人は就学援助を受けている現状にある。
小学校でもいじめ発生件数が最多など、子どもを取り巻く環境が危惧される。また、高齢者の単身世帯も多い。

ⓒ2018 NPO法人GIFT

子どもを中心とした地域の居場所「えいや家」とは

有料老人ホーム
あっとホームさん

・食堂　・図書室
・ホール・会議室

子どもを中心とした
地域の居場所

©2018 NPO法人GIFT

子どもを中心とした地域の居場所「えいや家」とは

活動理念

すべての人が無限の可能性を感じ

夢をかなえるために自信を持って自由にチャレンジできる

世の中をつくり、世界を笑顔と絆でつなぐ

ⓒ2018 NPO法人GIFT

子どもを中心とした地域の居場所「えいや家」とは

ビジョン ー ー ー ー ー

- 自己肯定感、自己有能感、チャレンジ精神など「自立した大人に必要な力」を育み、子どもたちが「自分のできることが社会にどんな価値を与えていけるか」を体験的に学ぶ場をつくります

- 子どもの成長を見守る大人たちにとっても、人生が豊かになる学びの環境をつくっていきます

- 子どもを中心とした地域の居場所という多世代コミュニティーが各地で運営され、子どもの成長を見守り育てる仕組み、持続可能な地域社会を創造していきます

- この学びの場で育った子どもたちが、自分の役割を知り、可能性を発揮して地域社会を導きます。

©2018 NPO法人GIFT

子どもを中心とした地域の居場所「えいや家」とは

事業内容

■子どもを中心とした地域の居場所えいや家（子ども食堂）の運営

2016年11月から毎週水曜日開催　１４１回（2019年7月24日現在）

2016年11月～2018年3月末	利用者	述べ	１３００人
2018年度	利用者	述べ	１６００人
2019年度（4月、5月、6月）	利用者	述べ	３９０人

2016年クリスマスイベント
2017子ども秋まつり　　参加者　合計４００名以上
2018年子ども夏まつり　クリスマスイベント

©2018 NPO法人GIFT

貧困問題と子どもの居場所との関係性

- 経済的な貧困
- 心の貧困
- 関係性の貧困
- 教育の貧困

→ **社会構造**
生活構造 的に起こっている

どんな環境にいても
自立した考えをもって
行動ができる大人へと
成長できる場所

社会の一部として
生活の一部として
あたりまえのように
そこにある

子どもを中心とした
地域の居場所

©2018 NPO法人GIFT

子どもの居場所の役割　その１

■安全で安心できる小さな社会として

▶枠を感じさせない繋がり

▶自分の価値観を否定されない場所

©2018 NPO法人GIFT

子どもの居場所の役割　その２

子どもの居場所＝自立に向けた学びの場

●非認知能力の育成

・EQ（心の知能指数）自己や他者の感情を知覚し、また自分の感情をコントロールする知能
・SQ（社会的能力）情報をキャッチする能力、実際に適切に振る舞う能力
・PQ（身体的能力）
。・MQ（道徳的知能）他の人々や動植物、自然環境に対し、どのような態度をとるべきか適切に判断する能力
・開放性（好奇心、想像力、新しいものへの親和性）
・外向性（コミュニケーション能力、社交性、積極性）
・協調性（共感力、仲間と協力して取り組む力）
・勤勉性（まじめさ、責任感の強さ）
・精神的安定性（不安や緊張に対する強さ、自信）

子どもを中心とした地域の居場所

©2018 NPO法人GIFT

子どもの居場所の役割　その２

■多様な体験による学びと経験

《子ども》

- 多世代、多様な価値観との出会い
- 失敗も大切な体験
- 主体性の土台づくり
- やりたいことをやってみる
- 他者承認から自己承認へ

《大人》

- 子育てに関する課題の共有
- ホッとできる憩いの場
- 家庭や職場以外の社会との繋がり

子どもを中心とした
地域の居場所

©2018 NPO法人GIFT

事業実施にあたり留意していること

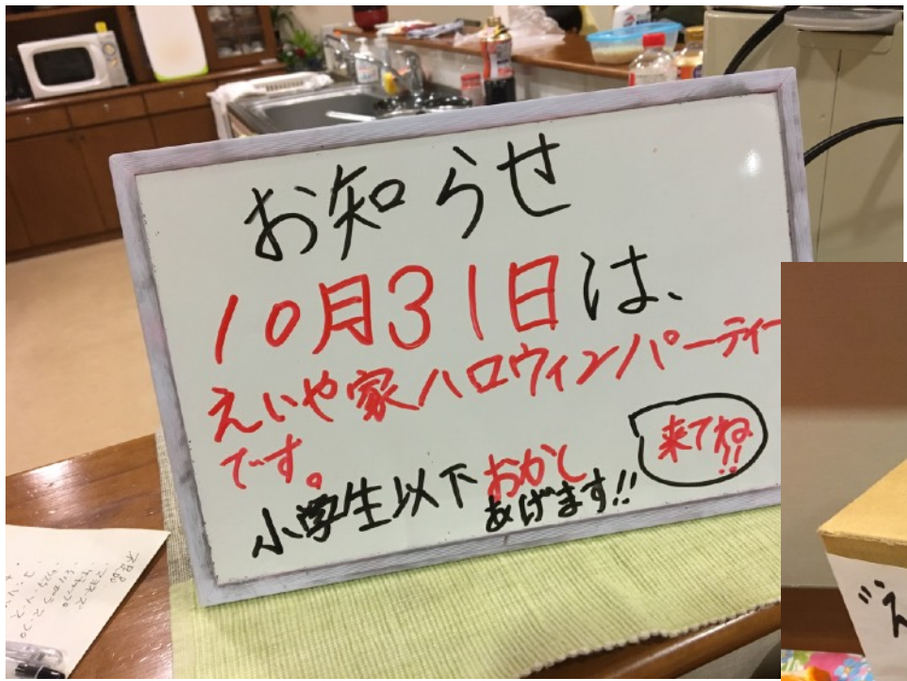
サスティナブル（持続可能）

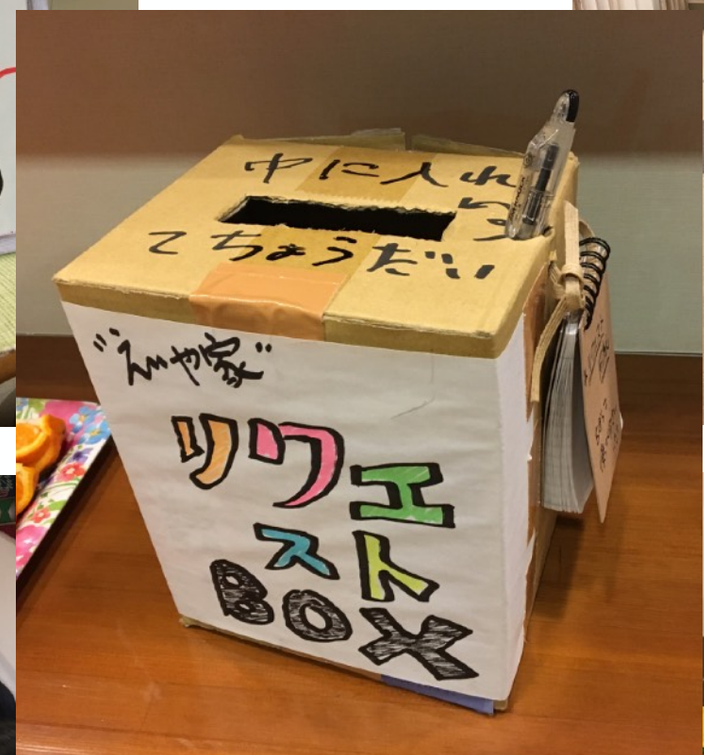
エンパワーメント（潜在能力開花）

- 体験を通して成長できる場である
- 子どもに寄り添う（子供扱いはしない）
- いつまでもそこにあり続ける
- サービスではない
- 関わる人が豊かになる仕組み
- 自立した運営を目指す

ⓒ2018 NPO法人GIFT

子どもの居場所の効果





子どもを中心とした
地域の居場所

© 2018 NPO法人GIFT

子どもの居場所の多様性

学校に居場所のない子どもの拠り所

＋

高齢化する地域に居場所をつくる

子どもを中心とした地域の居場所
えいや家ポケット開設

©2018 NPO法人GIFT

運営の課題と今後の展開

- 居場所での子ども同士の関係性　⇒ 居場所の多様性
- 居場所内だけでは届かない支援　⇒ アウトリーチへの発展
- 居場所の開催頻度、時間　⇒ 予算、人員の確保
- 地域をどのように巻き込んでいくか　⇒ 地域通貨などの仕組み
- 居場所の必要性をどう伝えていくか　⇒ 価値の見える化

©2018 NPO法人GIFT

最後に

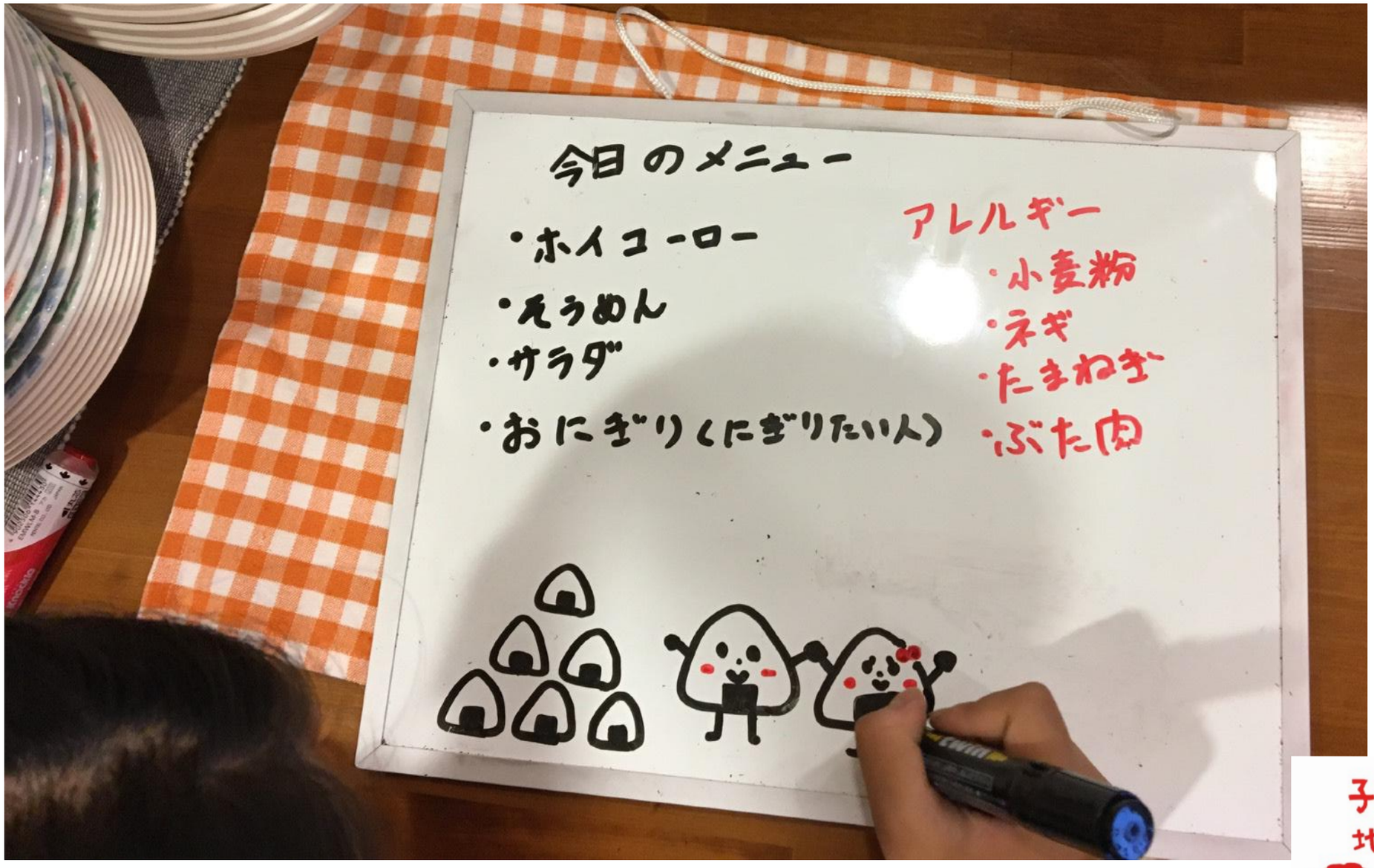
企業にも、まして家族にも頼れない。そういう中でどうしたらいいか？　やはり諦めるのではなく、変化する社会に適応できても「次はどうなるかわからない」ことを理解したほうがいいです。
その中で自分を押し殺したりせず生きていくことが大事です。ただ、それをひとりで行うのは難しい。人間はひとりで突っ張れるほど強くないから、助け合う集団をつくること。社会は、そういう集団の延長でないとおかしい。

「現代の貧困」著者：岩田正美さん（日本女子大学教授）

©2018 NPO法人GIFT

互いが自分のできることで貢献し合う社会へ

目の前にいる子どもたちを
ひとりぼっちにさせないために
子どもを中心とした地域の居場所があります



子どもを中心とした
地域の居場所

© 2018 NPO法人GIFT